

# メタセコイアの挿木について

技 師 伊 藤 忠 男

## 1. はじめに

メタセコイアの挿木は各方面で行われ、活着が非常に良く、その後の成長も良好である。当所においても増殖をかねて挿木養苗の試験を実施しているので、その成績のこれは中間報告である。

## 2. 挿木試験項目及方法

行つた試験項目は次のとおりである。

- (1) 挿穂の太さ試験
- (2) 穂作り試験
- (3) 挿木時期試験
- (4) 薬剤処理試験
- (5) 床土試験

挿穂は2年生山行苗（佐賀県林業試験場産）と28年度植栽木（国立林業試験場産）の側枝より採取した。

床は平床とし、列間10cmでm<sup>2</sup>当り120本を案内棒を用い、切口は粘土溶液に浸して、深さは5~8cmに挿付けた。

挿付直後、よしずの日覆いをなし、挿付一ヶ月間、早天には朝一回灌水した。除草二回行つた。

## 3. 挿穂の太さ試験

昭和33年4月9日に前年の側枝をとり、12cmの長さに管切りした。

これを末口直径3mm以下、4~5mm、6~7mm、8mm以上の4段階に分け一昼夜清水に浸漬して挿付けたところ第1表のような成績を示した。

第1表 穂の太さ試験成績

| 挿穂の太さ         | 挿付本数     | 活着本数    | 枯損本数    | 活着率       | 秋季の大きさ     |         | 備考                    |
|---------------|----------|---------|---------|-----------|------------|---------|-----------------------|
|               |          |         |         |           | 平均苗高       | 平均根際直径  |                       |
| 末口直径<br>3mm以下 | 本<br>100 | 本<br>89 | 本<br>11 | %<br>89.0 | cm<br>16.0 | mm<br>4 | 約20%は<br>二又苗木<br>である。 |
| 4~5mm         | 100      | 97      | 3       | 97.0      | 20.0       | 5       |                       |
| 6~7mm         | 100      | 86      | 14      | 86.0      | 23.0       | 7       |                       |
| 8mm以上         | 100      | 89      | 11      | 89.0      | 25.0       | 9       |                       |

## 4. 穂作り試験

昭和33年4月9日に前年の側枝を採取し、12cmの長さに管切りした末口直径4~5mmの太

さ路々一様の穂木を剪定鋏で荒どりしたまゝの穂(切断面円形)と、その下部を鋭利な小刀で斜に切直し僅かに切返した穂(切断面馬蹄形)の二種類に調製し、一昼夜切口を清水に浸漬して挿付けた。昭和33年9月20日に堀取り調査したところ、第2表の様な成績を示した。

第2表 穂作り試験成績

| 穂作り区分            | 挿付本数 | 発根苗 |      | 枯損苗 |      |
|------------------|------|-----|------|-----|------|
|                  |      | 本数  | 比率   | 本数  | 比率   |
| 荒採りしたまゝの穂(円形)    | 100  | 86  | 86.0 | 14  | 14.0 |
| 下部を刃物で切直す(馬蹄型切返) | 100  | 91  | 91.0 | 9   | 9.0  |

5. 挿木時期試験

メタセコイア挿木において限られた台木より少しでも多量に殖すことを必要とするので時期別試験を行つた。なお7月7日のものは新梢である。穂木は挿付前日に採取し一昼夜切口を清水に浸漬して挿付けた。

なお、挿付は昭和33年4月10日から7月7日迄の間に実施したところ、第3表のような成績を示した。

第3表 挿木時期別試験成績

| 種別             | 挿木時期 | 4月10日  | 4月15日  | 5月8日   | 7月7日  |
|----------------|------|--------|--------|--------|-------|
| 挿付本数           |      | 100本   | 100本   | 100本   | 100本  |
| 発根苗数           |      | 92     | 91     | 89     | 83    |
| 枯損苗数           |      | 8      | 9      | 11     | 17    |
| 百分比%           | 発根苗  | 92.0%  | 91.0%  | 89.0%  | 83.0% |
|                | 枯損苗  | 8.0    | 9.0    | 11.0   | 17.0  |
| 秋季に於ける平均苗高cm   |      | 22.0cm | 20.0cm | 18.0cm | 8.0cm |
| 秋季に於ける平均根際直径mm |      | 4.0mm  | 4.0mm  | 4.0mm  | 3.0mm |

6. 薬剤処理試験

昭和33年4月14日前年の側枝を採取し長さ12cm、末口直径4~5mm 下部を斜に切り僅かに切返した穂木を三共αナフタン醋酸ソーダ5万倍液及エチルアルコール(日本薬局方)1千倍液に、無処理区は清水に各々24時間浸漬処理を行い挿付けたところ第4表のような成績を示した。

第4表 薬剂処理試験成績

| 発根促進剤           | 挿付年月日   | 調査年月日   | 挿付本数 | 発根本数 | 枯損本数 | 発根率  | 平均苗高 | 平均直径 |
|-----------------|---------|---------|------|------|------|------|------|------|
|                 |         |         | 本    | 本    | 本    | %    | cm   | mm   |
| αナフタリン<br>醋酸ソーダ | 33.4.15 | 33.9.20 | 100  | 86   | 14   | 86.0 | 19.0 | 3.0  |
| アルコール           | 33.4.15 | 33.9.20 | 100  | 95   | 5    | 95.0 | 20.0 | 4.0  |
| 無処理             | 33.4.15 | 33.9.20 | 100  | 88   | 12   | 88.0 | 20.0 | 4.0  |

### 7. 床土試

施行期日 昭和33年4月9日

穂木の調製、前述と同様にして一昼夜清水に浸漬して鹿沼土、火山灰土（俗称のつぼと称する黒色土）、粘土、混合土（粘土6砂4）に挿付けたところ第5表のような成績を示した。

第5表 床土試験成績

| 土壌の種類          | 挿付本数 | 発根本数 | 枯損本数 | 発根率  |
|----------------|------|------|------|------|
|                | 本    | 本    | 本    | %    |
| 鹿沼土            | 100  | 94   | 6    | 94.0 |
| 火山灰土           | 100  | 86   | 14   | 86.0 |
| 粘土             | 100  | 92   | 8    | 92.0 |
| 混合土(粘土5<br>砂4) | 100  | 89   | 11   | 89.0 |

### 8. 実施結果に伴う諸考察

- (1) 挿穂の太さは長10~15 cm程度のもものでは細いもの及び極端に太いものは活着が悪くおよそ直径4~5 mm程度のものが非常に活着がよかつた。

(2) 穂作りは剪定鋏で荒どりしたまゝのもの（切断面円形）よりも下部を鋭利な小刀で斜に切直し、僅かに切返したもの（切断面馬蹄形）の方が活着がよかつた。

(3) 挿木時期別による活着は4月10日、92%、4月15日、91%、5月8日、89%、7月7日83%で冬芽のまだ開かない時期が最もよいが7月の新梢挿木も比較的よい活着を示した。

(4) 植物ホルモン剤αナフタリン醋酸ソーダ及アルコールの薬剂処理試験の結果特にホルモン剤使用の有為差は認められない。

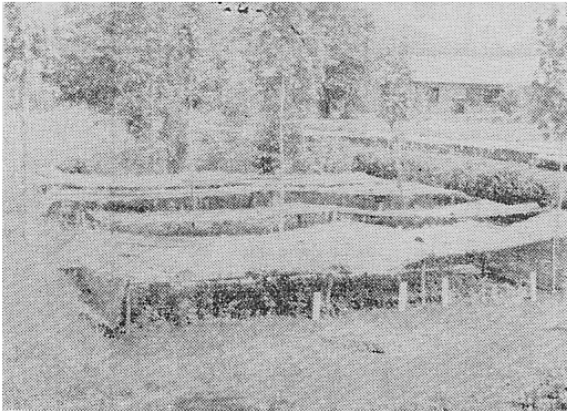
(5) 床土試験の結果は鹿沼土、粘土、混合土（砂4、粘土6）火山灰土、（俗称のつぼ）の順に発根率がよかつた。

### 9. 摘要

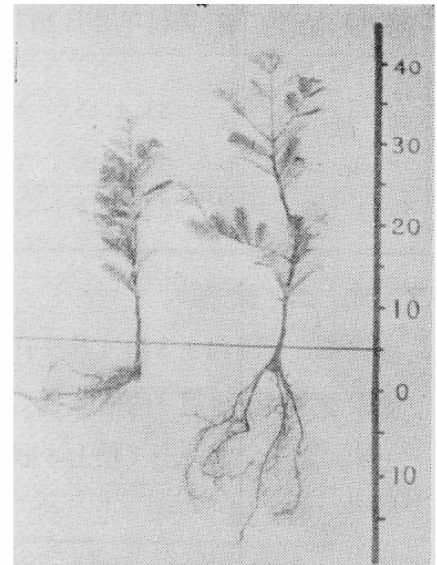
- (1) 福島県林業指導所附属苗畑でメタセコイアの挿木試験を行いその結果を調査した。
- (2) 行つた試験は挿木の太さ試験、穂作り試験、挿木時期試験、薬剂処理試験、床土試験である。
- (3) 挿穂の太さは長10~15 cm程度のもものでは直径4~5 mm程度のもものが非常に活着がよかつた。
- (4) 穂作りは、下部馬蹄形切返しの方が活着がよかつた。
- (5) 挿木時期は4月10日の冬芽の開かない時期が最もよかつた。

- (6) ホルモン剤使用の有為差は認められなかった。
- (7) 鹿沼土が最も発根率がよかつた。
- (8) 本試験は継続中である。

(メタセコイア挿木床)



(発根状態)



(メタセコイア挿木床)



(メタセコイア挿木床)

